

杉並の四季アルバム「春」

寒く厳しい冬が次にバトンを渡すのは、さまざまな命が一齐に芽吹く春。私たちの生活でも、新しい環境へ入っていく方が最も多い季節です。それを応援するように、華麗な花を一齐に咲かせるのが、日本の美の象徴でもある桜です。

「桜の名所」として知られる善福寺川には全長4.2kmにも及ぶ約400本の桜を楽しむことができます。もちろんほかにも神田川の川沿いなどでもお花見を楽しむことができます。桜といっても、ソメイヨシノ、八重桜、サトザクラ、御所桜など、さまざまな種類があり、咲く時期も少しずつ異なります。杉並区内では何と6400本以上の桜の木が確認されています。あなただけの「お気に入りの木」を探してみるのもおすすめです。

春を待ち遠しく思っているのは桜だけ

ではありません。区内の公園では野鳥のさえずりが聞こえてきます。「ツツピー ツツピー」と鳴くのはシジュウカラ。善福寺公園や、和田堀公園の池で見られるカイツブリという鳥は、親鳥の背中にヒナを乗せて泳ぎます。

花の蜜が大好きなヒヨドリは、桜の季節になると、くちばしに黄色い花粉をつけているそうです。春ならではの光景に、思わず笑顔がこぼれてしまうかも。

春の息吹を感じたら、少し立ち止まり思い切り深呼吸してみたいかがでしょうか。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、区内の自然・環境についての情報を掲載しています。ぜひチェックしてみてくださいね。フォトギャラリーでは皆さんからの写真の投稿もお待ちしています。(樋)



ウェブサイト
もあるよ!

すぎなみ学

検索

大正の杉並人は スケートが大好き?!

大正初期から昭和初期にかけて、ここ杉並区に遊園地があったのをご存じですか？ 創設者の名前にちなんで「吉田園」と名付けられた遊園地には、驚きの施設がありました。それはなんとアイススケート場。杉並区にスケート場ですよ！

その頃、下高井戸の冬は現在よりも寒冷だったそうです。吉田園があった杉並木に日光が遮られる北斜面では、玉川上水の清水を利用して氷が製造されていました。「どんなに寒い冬だって、楽しまなくちゃ！」今年は特に寒いですが、そんな思いは今も昔も変わることはありません。そこに土地を所有していた吉田甚五郎氏は、市民の憩いの場を作ろうと遊園地を完成させました。吉田氏の情熱と志は高く、音楽隊を結成したり、吉田園までの道に私費で橋

を架けたほどです。

吉田園は、冬期はスケート場、夏期はプールとして、ほかにもテニスコートやグラウンドに茶亭など、バラエティーに富んだ施設を有しており、近隣の住民だけでなく、当時の流行をいち早く取り入れた「モボ」(モダンボーイのこと)たちや歌舞伎役者や文士なども集まる名所となっていたようです。一年を通してレジャーを楽しむ場だったのですね。まだ機械技術が発達していない時代、自然の力を最大限に生かそうとする



ウェブサイト
もあるよ!

すぎなみ学

検索

人々の知恵と遊び心が詰まった遊戯施設といえます。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、吉田園にまつわる歴史やインタビュー記事を掲載しています。ぜひチェックしてみてくださいね。



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

見るだけじゃない！ 杉並で格闘技

皆さんは「格闘技」と聞いてどんなことを想像しますか？ ここ杉並区では、子供から大人まで気軽に体験できる格闘技の教室やサークルが活発です。たとえば杉並第三小学校で練習が行われているキッズレスリング。3歳から中学3年生までの子供たちが汗を流しています。こちらの教室では、全国少年少女レスリング選手権大会（平成20年）で9人の優勝者を輩出しています。活躍の秘訣は年齢別や階級別に分けて、一緒に練習をすることなんだそうとか。大きな子が小さな子の面倒をみることで自主性も育っていきそうですね。

護身術もある意味では格闘技の一つです。いざという時に役に立つので、身に付けておくと安心です。でも自己流では不安ですよ。やはり、きちんと専門家にトレーニング方法を教わっておきたいもの。

「求心義塾」では、荻窪体育館を中心に、古武術・空手の有段者ボランティアが護身術や武道の基本的な作法を指導しています。同体育館では日本に古くから伝わる柔道の練習も行われています。

お買い物のついでにトレーニングすることも可能ですよ。阿佐谷パールセンター商店街にある「チーム・ピットブル」は、元日本バンタム級プロボクサーが率いるジムです。本格的なコースだけでなく、ストレス発散やメタボ対策コースなど気軽に楽しめるコースが用意されています。

「これだっ！」と思った方は、一度見学してみたいでしょうか。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、区内で格闘技に関わる方々のインタビュー記事を掲載しています。ぜひチェックしてみてくださいね。（ひ）



ウェブサイト
もあるよ！

すぎなみ学

検索

炭が暮らしを支えていた頃

今年も残すところあとわずか。朝夕は冷え込みますが、今年は節電を意識して、暖房を抑え気味にしたいところです。ところで、その昔、冬の朝は火鉢に炭をおこして、暖まっていたことをご存じですか？ まず朝は、火のついた炭を火鉢に移し、火箸で火鉢の中で炭を立てて、暖をとっていました。日中は火鉢にあたる人がいなくなるので、炭に灰をかぶせ、埋み火にし、お茶を飲むなど用のあるときに灰の中から炭を取り出し火勢をつけました。夜には新たに炭を継ぎ足します。そして、暖房の傍ら、お酒のお燗をしたり、汁物を温めたりするのも役に立っていました。一日が終わると燃え残った炭は火消し壺に入れ、翌日また使ったものです。

炭の特長は火力と火持ちにあります。暖房は火鉢、調理は七輪で行っていた家庭が

ほとんどで、まさに「炭」は日々を支える生活必需品でした。一般家庭では月に4、5俵もの炭を買っていたそうです。炭屋さんの店先には、200俵くらいの炭俵が山積みになっていました。これが昭和30年代のありふれた冬の光景です。

もし今、火鉢を使うことができるのなら、省エネとして見直したい暮らし方かもしれませんね。風情もありますし。炭と言えば、バーベキューの燃料として思い浮かべる人の方が多いでしょうが、火鉢で煮たお豆はホントにおいしかったそうですよ。

ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」では、日々の暮らしを支える生活道具に注目し、当時の様子をよくご存じの杉並の方々に伺ったお話を掲載しています。なつかしい昭和の暮らしを見てみませんか。ぜひ一度ご覧ください。(大)



ウェブサイト
さがそうよ!

すぎなみ学

検索

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。



物語に出てくる杉並は多種多様

秋の夜長は読書をして過ごすという方も
多いはず。ここ杉並が舞台となった物語を
読んだことはありますか？

井伏鱒二の「荻窪風土記」は昭和初期の
荻窪界隈の空気が全編に渡り満ちあふれ、
なじみ深い杉並の地名が
次々に登場して、読者を
過去へと誘います。昭和
2年に荻窪に移り住んだ
著者が、関東大震災から
太平洋戦争後までの時代
の流れを背景に、荻窪で
の文筆生活をつづった自
伝的エッセイで、変わり
ゆく荻窪界隈の様子や作
家仲間や地元の人々との
交流が、ユーモアあふれる軽妙な筆致で描
かれています。

高円寺が登場するのは村上春樹の小説
「1Q84」。男女それぞれのストーリーが
交互に描かれ、徐々に現実とは違う1Q84
年の世界で交錯していくという内容で、主

人公の男性が住んでいるのが高円寺。もう
ひとりの主人公である女性が住む自由が丘
とは、対照的に描かれています。重要舞台
でもある「高円寺の児童公園」は高円寺中
央公園がモデルかもしれません。月の明る
い夜に滑り台に登って空
を眺めると、小説の世界
をより堪能できるかもし
れませんね。他にも高円
寺駅周辺の小さなレスト
ラン・居酒屋・6階建て
マンション・中型スーパ
ーマーケットなど、本を
片手にあれこれ想像をめ
ぐらしながらの街探検も
楽しそうです。



ウェブサイト
もあそびよ!

すぎなみ学

検索

物語の中に出てくる杉並は多種多様。町
の本屋さんや図書館で杉並に出会える物語
を探してみてもいいでしょう。ウェブサ
イト「すぎなみ学倶楽部」では杉並が登場
する小説やマンガ・アニメなどの著作を紹介
しています。ぜひ、ご覧ください。(大)



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

高円寺～寺町散歩

すっかり秋ですね。ぶらぶら歩くと
気持ちの良い季節になりました。

高円寺は駅周辺に個性的な商店がに
ぎわっているのです。どこを歩いても楽
しめます。古着の店やカ
フェに立ち寄ったりしな
がら、まだ足を運んだこ
とのない所まで気軽に歩
いてみませんか。

JR高円寺駅の南側を
歩いて行くと、地名の由
来となった宿鳳山高円寺
があります。さらに5分
ほど歩くと、高円寺南2
丁目に出ます。ここは7
つの寺と出会える「寺町」
です。7つの寺とは、曹
洞宗の長龍寺・宗泰院・
松應寺・西照寺・福寿院・
鳳林寺と日蓮宗の長善
寺。ほとんどが明治の末から大正にか
けて東京の都心の開発に伴って移転し
て来た寺で、隣り合うように集まって

います。

元は麴町にあった宗泰院は旗本寺
で、本堂の緩やかな屋根の勾配が江戸
時代の寺院建築の様式を今に伝えてお
り、それは見事です。本
堂正面出入口の欄間には、名人伊豆の長八作の
しっくり細工「龍の壁画」
があります。草花や景色
を見ながらのんびりと寺
町めぐりをして、心を癒
やされてみては？

区内には他にも史跡や
遺跡、公園など歴史ある
見どころがあります。ち
なみに、荻窪の大田黒公
園は今年も例年通り、晩
秋のライトアップを11月
25日(金)～12月4日(日)に実
施予定です。

ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」
では区内の散歩コースやスポットを紹
介しています。ぜひご覧ください。



すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

残したい、わたしのまち の素敵な景観

お散歩の途中で、町にとけ込む素敵な建物を見かけたことはありませんか？ ここ杉並区では、いくつもの優れた建物が時代を超えて残っています。

例えば、荻窪4丁目の「旧荻窪電話用事務室」は、戦前（昭和7年）に当時の建築手法の最先端であったインターナショナルスタイルで建てられました。

この建物は、日本武道館の設計も手がけた山田守による設計です。丸みをおびた独特な建物の形は、古さを全く感じさせないデザインで、今も見る人を魅了します。

こうした貴重な建物と景観を残すため、平成11年に発足したのが、「杉並たてもの応援団」です。区民を交えた建物ウォッチングの開催や、区内にある建物の調査・記録などを行っています。

また、平成15年には「街づくり活動助成制度」が施行されました。この制度により、景観的に価値がある建物に対して、外観を保存するための取り組みを、区と杉並たてもの応援団が協力しながら行っています。

さらに、杉並区には区民参加型の「杉並『まち』デザイン賞」という制度があります。この賞は区民からの公募推薦によって、魅力的な建物や景観、まちづくりの活動に対し、贈

られるものです。賞ができてから20年以上が経過し、応募の件数が500件を超えていることから、杉並区民の関心の高さがうかがえます。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、こうした活動や歴史的にも貴重な建物が写真付きで紹介されています。ぜひご覧ください。（樋）



ウェブサイト
もあるよ！

すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

探してみよう！ 杉並区の貴重木

暑い夏の日、葉が生い茂っている大きな木の下に入るとちょっと落ち着いた気分になる方も多いのでは？

人間の寿命よりはるかに長い年月をかけて成長してきた巨木を見ていると、どこか神秘的な感じがします。

ここ杉並区では、「区民の共有財産として次世代に残す価値がある」と認められた47本の貴重木があります。貴重木とは、幹の直径が同じ種類の樹木の中でも特に大きいものや、地域内で生育しているのが珍しい木のことを指します。みどりが年々減少していく現在、平成12年から杉並区的环境保全事業のひとつとして、貴重木の保全活動が行われています。区内の貴重木として認定されている、荻窪八幡神社のコウヤマキと呼ばれる樹木は、推定樹

齢が何と500年。木の高さは19mあります。この木は「道灌榎(どうかんまき)」という立派な名前が付き、室町時代の武将であり歌人としても知られる太田道灌が、「石神井城を攻めるにあたり、八幡神社に参詣して榎の木を献樹した」という由来が残っています。

樹木は動物と違い、生えたところから移動することなく一生を過ごします。「この木がまだ小さかった頃、ここはどんな風景だったのだろうか？」と想像するだけでワクワクしますね。じっと観察してみると、今までは気付かなかった発見があるかもしれませんよ。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、夏休みの自由研究に役立つ「樹木しらべ用ワークシート」を掲載しています。ぜひチェックしてください。(樋)



すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

教えて！お盆の伝統行事

日本の伝統行事のひとつである「お盆」。馬と牛に模したきゅうりやなすを仏前にお供えしてあるのをご覧になったことがある方も多いのではないのでしょうか。なぜ野菜を馬と牛に見立てるのがご存じですか？ あの形はご先祖さまが里帰りをするための牛車や馬車を表しています。今ではあまりピンと来ませんが、昔は牛や馬を移動手段にしていたことを考えればうなずける話です。ここ杉並でも戦前は馬車が通っていたそうです。

本来のお盆は、旧暦7月15日の前後数日をいいますが、現在都内では、旧暦7月を新暦に置きかえて7月中に行事を行う所が多いようです。大正11年生まれの区内に住む女性から、今は知る人が少なくなってきた杉並のお盆の風習について教えていただきました。

お盆と言えば迎え火。かつては墓地へ行って、お迎え火をたき、その火を提灯に移して家まで持ち帰る風習があったそうです。また、かつては遠方から来て住み込みの奉公をしていた人たちが多かったため、お盆には「藪入り」という正式に実家に帰る習慣があったとか。

戦後から盛んに行われるようになったのが「盆踊り」です。学校が休みになる8月にあわせて行われるところも多いようです。実は杉並区にも「杉並音頭」というものがあります。これは杉並区制50周年を祝して作られま



ウェブサイト
もあろうよ!

すぎなみ学

検索

した。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、いにしえから伝わるお盆の風習をほかにも掲載しています。ぜひチェックしてみてくださいね。(桶)



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

店主の心意気あふれる すぎなみの逸品

梅雨明けが待ち遠しい季節、お中元の準備はしていますか？ 相手の好みを気にせず贈れる商品券やカタログギフトもいいけれど、味気ない印象があります。相手を元気づけるような旬の品物を、地元の商店で選びませんか？ 杉並にはオリジナリティあふれる名品がたくさんあります。

例えば、東京高円寺阿波おどりを記念して作られた「阿波踊りサブレ」は高円寺の老舗パン屋の名物です。社長自らが作る添加物等を一切使わない、真心のこもった味が人気です。また、杉並といえ

ば、なみすけ（ブログ更新中！）。本天沼の洋菓子店には「なみすけ・ナミークッキー」があります。「手頃な値段で日持ちするなみすけのお土産を作りたい」というなみすけ好きの店主が考案。絵柄

の部分は安全な食用着色料を使用しており、2カ月くらい日持ちするそう。甘いものが苦手な方には、下井草の完全無添加ハム・ソーセージ専門店の「生ハム・ソーセージ」はいかが？「おいしくて安全」を追求した店長が生み出したハムや

ソーセージは国際的な品評会でも受賞したことがあるそうです。

どの商品にも共通するのは、「体によくておいしいものを」という店主の心意気。店頭で試食したり、商品にまつわるエピソードを聞くのも楽しみのひとつ。お中元選びを通して地域と人とのつなが

りがさらに深まりそうです。

すぎなみ学倶楽部では、他にも区民目線で選んだ杉並の名品や手みやげを多数紹介しています。ぜひご覧ください。

(み)



ウェブサイト
もあるよ！

すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。

広げよう！エコの輪 すぎなみ流エコライフ

東日本大震災がもたらした被害は、私たちに自然との共生のあり方や省エネを見直す機会を提示しています。深刻な電力不足が予想されている今夏、節電しながらいかに涼しく過ごすが、一人一人の心がけと工夫が必要です。

区では、夏場の省エネ・ヒートアイランド対策として平成19年から、区役所本庁舎南側にゴーヤー・ヘチマなどを植え「みどりのカーテン」を作る取り組みをしています。毎年4月中旬に植えられる種や苗は、夏の日光を浴びてぐんぐん成長し昨年は27mに達しました。日射のエネルギーを70%~80%遮る緑の葉は、見た目に涼しく、職員と区民のエコ意識を高めるための看板的作用を担っています。みどりのカーテンの今後の成長に期待しましょう。

ところで、今年の夏こそ、ご家庭でもみどりのカーテンに挑戦してみたいかでしょうか。ヘチマは葉も大きいので室内にもけっこう日陰ができます。エアコンのように室温が下がるわけではありませんが、青々とした葉は、見た目にも涼しげな印象を受けます。また、葉が目隠しの役割を果たすので、窓を開けたままにできる利点もあります。種や苗の早めの入手、こまめな水やりなど、手間はかかりますが、手をかけただけの効果は期待でき、節電しながら涼しく過ごすことができそうです。

すぎなみ学倶楽部では、自然体験のコーナーで、区役所のみどりのカーテンの

取り組みや自宅でできるグリーンカーテンなどを紹介しています。ぜひご覧ください。



すぎなみ学

検索

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から
ちょっといい話をお届けします。



飛行機工場は 桃井原っぱ公園になった

今から86年前の大正14年、大根畑の広がる田園に巨大企業がやってきました。それが中島飛行機です。

中島飛行機の社宅で生まれた齋藤さんは、工場の終業のサイレンを今でも覚えていて、サイレンが鳴ると「何があったんだろう」というくらい、青梅街道には帰路につく人がたくさん歩いていたそうです。齋藤さんのお父さんは自宅でも縁側で図面を広げたり、英語で書かれた図面を日本語に訳していたそうですが、職場のことは一切話しませんでした。当時の中島飛行機は軍用機を生産する機密の多い企業でした。

戦後、中島飛行機はいくつもの企業に解体されました。中島飛行機に就職し、そのまま富士精密工業の社員となった平井さんは、自動車メーカー6社が参加し

た国産自動車性能試験がその頃の一番の思い出だそうです。皇居前を出発し、京都で折り返し、小平市にあった通商産業省（現：経済産業省）の試験場で最終テスト、日野自動車の工場で自動車を分解して評価しました。

桃井3丁目にあった中島飛行機の工場跡地は、日産自動車が所有していましたが、平成10年には移転し、跡地は売却されることになりました。売却にあたって日産自動車側は、長年お世話になった地元住民・杉並区・行政機関に貢献する施設づくりを希望しました。

その結果、跡地の一部はこの春、防災公園「桃井原っぱ公園」として開園しました。すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、当時を知る関係者ならではの証言を集めました。ぜひご覧ください。



ウェブサイト
もあるよ!

すぎなみ学

検索